

令和3年度「長久手市役所の仕事」通知表の作成（外部評価）⑥

令和3年10月1日 開催概要

| 開催概要           |   |
|----------------|---|
| 会議等の名称         | 令和3年度行政評価・外部評価⑥<br>「住宅耐震事業」【都市計画課】  |
| 開催日時           | 令和3年10月1日（金）<br>午後3時から午後3時50分まで   |
| 開催場所           | 市役所北庁舎2階 第5会議室  |
| 出席者氏名<br>（敬称略） | <外部評価実施者（行政改革推進委員）><br>石橋健一、樋口和則、安立憲市、近藤恵美子<br><担当課><br>建設部次長 川本保則、都市計画課長 矢野克明、<br>建築係長 山崎暢之<br><事務局><br>総務部次長 福岡隆也、行政課長 若杉雅弥、<br>課長補佐 伊藤 愁、庶務係長 加藤優作 |
| 傍聴者人数          | 0人  |
| 問合せ先           | 長久手市総務部行政課 0561-56-0605   |
| 備考             |   |

|                 |  |
|-----------------|--|
| 外部評価実施者の<br>意見等 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・第3次耐震改修促進計画を策定したことをもっと広報誌などでアピールすべき。具体的な内容を住民が理解できていないと思う。<br/>新規のブロック塀を設置する際の基準も周知するべき。</li> <li>・ブロック塀の危険箇所を調査によって把握しているが、2019年から2020年には3か所の減少に留まっている。<br/>通学路や人通りの多い場所を重要地点として位置づけて重点的に取り組んでいってはどうか。</li> <li>・成果指標として、補助の累計件数では危険度がどの程度低減しているか確認ができない。市内の危険箇所は、把握しているとのことなので、危険箇所の改修率を成果指標とするべきではないか。</li> <li>・情報発信については、文字だけでなく、画像や動画を活用するなどの工夫が必要。<br/>また、東日本大震災の被災地に派遣された職員の経験を活かすことで、市民の関心、防災意識を高めてはどうか。</li> <li>・広報誌でも流し読む記事と目にとまったり、心に響く記事がある。写真や事例を分かりやすく伝える工夫が必要。</li> </ul> |
|-----------------|--|

|  |   |
|--|---|
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・所有者に対して、危険度を認識してもらうような通知の仕方はできないか。</li> <li>・地震対策器具展示会は、短期間の展示では訴求力に欠けるので、福祉の家、杵ヶ池体育館等に常設の展示会場を設けるなど、地道で息の長い啓発も必要。</li> <li>・市民の耐震意識の方策として、ダイレクトメールだけでなく、被害の実例の映像を活用した広報が有効と考える。耐震対策有無での被害の比較も有効と思う。</li> <li>・ブロック塀、住宅のいずれも改修件数だけでなく、通学路や主要道路に面しているか等を考慮した重要度・優先度をつけて実効的な対策を進める必要があると考える。</li> </ul> |
|--|---|

|               |   |
|---------------|---|
| <p>講評・まとめ</p> | <p>長久手市は、それ程予測震度が強くなく、また大きな河川もなく水害の可能性も低いため、防災意識が低い地域だと感じている。</p> <p>担当課として、普及啓発に苦勞していることもよく理解できたが、だからこそ成果指標の見直しと、かなり工夫を凝らした取組が必要であり、広報、WEB、説明会などの活用を検討して欲しい。</p> |
|---------------|---|